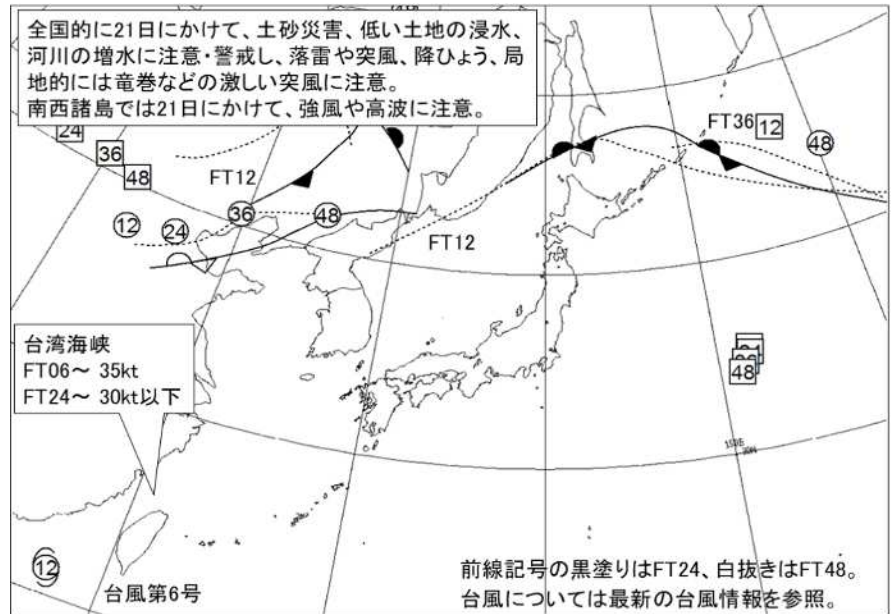


1. 実況上の着目点

- ① 太平洋高気圧が日本の東から本州付近へ張り出し、高気圧の縁辺では下層暖湿気が流れ込んでいる。九州北部で激しい雨を解析し、雷を検知。
- ② 上層寒冷低気圧（UCL）が日本の南と日本の東にあって、衛星水蒸気画像で低気圧性循環が見られる。
- ③ 黄海～沿海州～オホーツク海～日本のはるか東に前線がのび、前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で、北海道地方で1時間に10mm前後の雨を解析。
- ④ 台風第6号が南シナ海を西北



主要じょう乱解説図

西進。南西諸島周辺では強い雨を解析し、海上ではうねりを伴いしけている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、21日にかけて本州付近への張り出しを強める。下層暖湿気や高気圧の影響で全国的に21日にかけて、気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ② 1項②の日本の南の上層寒冷低気圧は20日にかけて南西諸島付近に進んで不明瞭化、日本の東の上層寒冷低気圧は21日にかけて日本の東をゆっくりと南下。2項①の日中の昇温の影響と上層寒冷低気圧周辺の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。西～東日本では21日にかけて、北日本では20～21日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意・警戒。東日本を中心に上空の風が弱く対流雲が発達しやすい事や、これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある事に留意。
- ③ 1項③の前線は、20日にかけて北海道の北に停滞する。前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。北海道地方では20日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ④ 1項④の台風第6号は発達しながら、21日にかけて南シナ海からトンキン湾付近へ進む。台風と2項①の高気圧との間では、下層暖湿気が流れ込み大気の状態が不安定となるため、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。また、気圧の傾きが大きくなるため、強い風が吹き、うねりを伴ってしける所がある。南西諸島では21日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風、強風、高波に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とするが、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：北海道100mm。② 波浪(明日まで)：沖縄5、奄美3m。③ 高潮(明日まで)：東～西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。